

巻 頭 言

公益社団法人群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院
坂本 敦

2025年10月26日、伊香保温泉「ホテル天坊」にて第32回群馬県理学療法士学会を開催いたしました。山崎紳也準備委員長を中心に周到な準備を重ねた本大会は、300名を超える参加者を迎え、一般演題においても47題が集まり、各会場で熱気あふれる議論が展開されました。

北毛ブロック開催でありながら、演題数・参加者数ともに過去最高水準を達成できたことは、本大会の大きな成果と自負しております。また、ホテルのロビーなどの空間を最大限に活用したことで、日常の臨床を離れたリラックスした雰囲気の中、会員同士が緊密な対話を通じて深い意見交換を行うことができました。コロナ禍以降、対面形式の研修や交流が制限されてきた現状において、本大会は会員間の絆を再確認する貴重な機会となり、多くの好評を博しました。

第一線でご活躍されている著名な講師の先生方をはじめ、本大会の成功にご尽力賜りました座長、演者、運営スタッフ、そして関係者の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

さて、このように盛会裏に終えることができた本大会ですが、私たちはその礎として「温故知新」というテーマを掲げました。現在、私たちを取り巻く医療・介護環境や社会情勢は急速に変化し、理学療法士に求められる役割も多様化しています。しかし、時代がいかに移り変わろうとも、理学療法の「本質」や先輩諸氏が築き上げてきた知識・技術、そして臨床への情熱が揺らぐことはありません。過去の歴史や伝統に敬意を払い、深い学びを経てそれを受け継ぐこと（温故）。その揺るぎない基盤の上に、現代の多様なニーズや最先端の科学的根拠を融合させ、新たな価値を創造し、臨床を発展させていくこと（知新）。この「温故知新」の精神こそが、未来を切り拓き、社会に貢献し続ける理学療法士として自らを成長させる鍵となると確信しております。

そして、この精神を具現化し、会員が日々の臨床や研究で積み重ねた研鑽の足跡を刻み、互いを高め合う重要なプラットフォームとして長年活用されてきたのが本誌です。近年、本誌は多様な専門性を持つ皆様が学術的議論を交わすための欠かせないツールとなっております。掲載された論文を丁寧に読み解き、日々の臨床をより良く変える糧として広くご活用いただくとともに、本誌が群馬県の理学療法のためのさらなる発展、ひいては2040年問題をはじめとする社会課題の解決に寄与することを期待しております。